

国立国語研究所学術情報リポジトリ

研究資料室中央資料庫収蔵資料の公開に向けての取り組みと課題

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): research material, fond document, general international standard archival description, personal information 作成者: 関川, 雅彦, 山口, 亮, SEKIKAWA, Masahiko, YAMAGUCHI, Ryo メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001421

研究資料室中央資料庫収蔵資料の公開に向けての取り組みと課題

関川 雅彦^a 山口 亮^b

^{a,b} 国立国語研究所 研究情報発信センター 非常勤研究員

要旨

国立国語研究所はこれまで方言、語彙、日本語教育等の様々な調査や研究プロジェクトを実施し、その過程で数多くの研究資料を収集・作成してきた。これらの貴重な研究資料は現在研究資料室に収蔵されているが、国立国語研究所の使命を考えれば研究所内外に広く公開し、日本語の研究・教育活動のために役立てられることが望ましい。

本稿では、研究資料室中央資料庫に収蔵されている主に紙媒体の研究資料について、公開に向けて行った準備と、その過程で生じた課題について述べる。

キーワード：研究資料、資料群概要、国際標準記録史料記述（一般原則）、個人情報

1. はじめに

1948（昭和 23）年の創設以来、国立国語研究所（以下、国語研という）は、方言、語彙、近代語、日本語教育等について数多くの調査、共同研究、研究プロジェクトを実施してきた。その成果は『国立国語研究所報告』や『国立国語研究所年報』等で報告されているが、その過程で調査票や録音テープ等の研究資料が収集・作成された。これらの研究資料は現在、研究資料室に収蔵されているが、紙媒体のものは段ボール箱で約 4,300 箱、音源としてはオープンリール・テープは約 2,800 本、カセット・テープは約 16,500 本にのぼっている。（他にも DAT, CD, VHS ビデオ、ベータ・ビデオ、8 mm フィルム、などがある。）研究資料は国語研内部での利用に供されることはあつたが、国語研の元職員や共同研究者等を除くとその存在は長い間外部にはほとんど知られていなかつた。

一方、国語研は創設以来、その設置形態に変遷はあったものの、創設の目的は「国語及び国民の言語生活に関する科学的調査研究を行い、あわせて国語の合理化の確実な基礎を築く」（国立国語研究所設置法、昭和 23 年 12 月 20 日）ことであり、大学共同利用機関となった現在も「日本語が持つ特質と普遍性並びに多様性を解明するため（中略）成果の活用を促進するとともに、人間活動の基盤としての言語に係わる新研究領域の開発に寄与する」（国立国語研究所要覧 2017/2018 のミッション）ことをミッションとしている。この国語研の研究機関としての性格から、国語研が収集・作成してきた研究資料は、可能な限り国語研の外部にも公開し、広く日本語の研究・教育活動に寄与することが望ましい。

このような考えから、2016（平成 28）年 2 月、国語研では研究資料室の利用に関する規程を改正し、これまで原則として国語研内部での利用としていたものを、調査・研究・教育を目的とする場合には外部にも公開することとした。同時に、研究資料を所管する研究情報発信センター

は公開のための研究資料室の整備に取り組んできた。

本稿では、研究資料のうち主に研究資料室中央資料庫（以下、中央資料庫という）に収蔵されている紙媒体に関してその取り組みを具体的に紹介するとともに、その過程で明らかになった課題について述べる。

2. 資料群概要の記述項目と移管票

2005（平成 17）年の立川移転を契機として、研究資料は中央資料庫に集中的に収蔵されるようになった。これらの研究資料は、調査やプロジェクト単位に資料群としてまとめられ、段ボール箱に収められている。資料群は、どのような調査や研究のもとに、いつ収集・作成されたか、資料の数（段ボール箱数等）はどれほどか、調査や研究の主体は誰か、成果はどのような形で刊行されたか、といった内容を記述した資料群概要としてまとめられている。

中央資料庫に研究資料を集中化する際に、資料群を記述するための項目は国際標準記録史料記述（一般原則）（ISAD(G) : General International Standard Archival Description）（図 1）に準じて採用された。これは、ISAD(G) がアーカイブズ記述に適していることはもちろんのこと、中央資料庫の研究資料の多様性と、将来的な資料群のデータベース化と横断検索を想定したものである（森本 2006）。このように研究資料を中央資料庫に収蔵した時点から、将来の資料群のデータベース化と国語研内外への公開が視野にあった。

一方で、資料群概要の構成項目は、資料群の記述に関する項目と資料群を管理する項目が混在するとともに、記述項目が ISAD(G) のどの項目に対応しているのか明確でない部分もあった。そこで研究資料の公開を具体的に検討する過程で、資料群概要の記述項目の見直しを行った。具体的には、データ管理上は資料の記述に関する項目と資料を管理する項目に大別し、記述に関する項目は ISAD(G) をできるだけ忠実に採用した。これは、資料群概要を公開した後に、国際的な検索・利用への可能性を考慮したものである。ただし、実際の表示形式は利用者の利便を考慮して、記述に関する項目と管理上の項目を適宜混在させた。（図 2）

研究資料は通常、調査や共同研究等による成果が報告された後に研究資料室に移管される。移管の際には研究資料についての移管票が移管者によって作成され、研究資料群の内容は研究資料室の担当者が、移管票や研究成果をもとに資料群概要を作成することになっている（寺島 2016、山口・関川 2016）。

立川移転後数年間は、研究資料室に文書整理の専門職が常勤職員として勤務し、詳細な資料群概要を作成してきた。しかし、人員削減の影響から文書作成の専門職を常勤職員として確保することが困難になり、他の職務を兼任する非専門職が担当するようになると、資料群概要の記述内容はおおまかにならざるを得なくなった。これは専門的知識や物理的時間の不足だけでなく、移管者が記載する移管票そのものの記載が簡略化されるようになってきたことも影響していた。

国語研を含む大学共同利用機関法人では、厳しい財政事情から、常勤の文書整理の専門職の確保は今後も現実問題として非常に困難である。その一方で、研究資料の公開を考えた場合、研究資料の内容を記述する資料群概要の質をできるだけ維持することが重要になる。

1. IDENTITY STATEMENT AREA	1 個別情報のエリア
1.1 Reference code	1.1 レファレンス・コード
1.2 Title	1.2 表題
1.3 Dates of creation of the material in the unit of description	1.3 記述単位に含まれる資料の作成年月日
1.4 Level of description	1.4 記述のレベル
1.5 Extent of the unit of description	1.5 記述単位の規模
2. CONTEXT AREA	2 成立の経緯に関するエリア
2.1 Name of creator	2.1 作成者名称
2.2 Administrative/Biographical history	2.2 組織歴・伝記
2.3 Dates of accumulation of the unit of description	2.3 記述単位の年代域
2.4 Custodial history	2.4 伝来
2.5 Immediate source of acquisition	2.5 資料入手先
3. CONTENT AND STRUCTURE AREA	3 内容および構造のエリア
3.1 Scope and content/Abstract	3.1 範囲と内容・要約
3.2 Appraisal, destruction and scheduling information	3.2 評価、廃棄処分、保存年限についての 情報
3.3 Accruals	3.3 追加受入
3.4 System of arrangement	3.4 整理の方法
4. CONDITIONS OF ACCESS AND USE AREA	4 公開および利用条件のエリア
4.1 Legal status	4.1 法的位置づけ
4.2 Access conditions	4.2 利用条件
4.3 Copyright/Conditions governing reproduction	4.3 著作権・複写に伴う条件
4.4 Language of material	4.4 資料の使用言語
4.5 Physical characteristics	4.5 物理的な特徴
4.6 Finding aids	4.6 検索手段
5. ALLIED MATERIALS AREA	5 関連する資料のエリア
5.1 Location of originals	5.1 オリジナル資料の存在
5.2 Existence of copies	5.2 複製の存在
5.3 Related units of description	5.3 関連する記述単位
5.4 Associated material	5.4 関連する資料
5.5 Publication note	5.5 出版情報
6. NOTE AREA	6 覚書のエリア
6.1 Note	6.1 覚書

図1 國際標準記録史料記述（一般）

*資料群 ID (fond 番号) Reference code
表題 Title
*概要 Description
*配架位置 Location of materials
*公開年月日 Date of release
資料群に含まれる資料の年代 Dates of creation of the material in the unit of description
数量・形態 Extent of the unit of description
資料作成者 Name of creator
資料作成組織の履歴 Administrative/Bibliographical history
資料作成年月日 Dates of accumulation of the material in the unit of description
管理歴 Custodial history
入手情報 Immediate source of acquisition
資料内容 Scope and content/Abstract
評価・廃棄 Appraisal, destruction and scheduling information
追加受入 Accruals
利用条件 Access conditions
複写条件 Copyright/Conditions governing reproduction
資料使用言語 Language of material
物理的特徴 Physical characteristics
検索手段 Finding aids
オリジナル資料の存在 Location of originals
複製の存在 Existence of copies
関連調査・研究 Associated material
成果刊行物 (DB 等含む) Publication note
備考 Note
*移管年月日 Date of approval
*移管者名 Name of applicant
*記述作成年月日 Date of record
*記述作成者 Name of recorder
*記述言語 Language of record

*のついた項目は管理用として、国際標準記録史料記述に追加したもの

図2 資料群概要の項目（表示形式）

このような状況の下、研究資料室では資料群概要の記述項目の見直しを機に、研究資料移管の際に作成される移管票の内容についても見直すこととした。これは、研究資料についてはその収集・作成を行った研究者が一番詳しいことは論を待たないが、その研究者が移管票を記入する際の項目を資料群概要の記述項目にできるだけ準ずることで、文書作成の専門職がいなくても資料群概要の記述の質を保つことを意図したものである。さらに、移管票の項目を資料群概要の記述項目に即した形に見直す際に、実際に移管票の項目にはどのような内容を記載するかということについても「手引き」を作成し、研究資料室側の意図が伝わるように配慮した。

3. 資料群概要のデータベース化

研究資料を一般公開するとしても、どのような研究資料が存在するのかを検索できるシステムがなければ公開の意味は半減する。場合によっては、公開前と同じように関係者のみが存在を把握しているということになりかねない。

これまで研究資料についての資料群概要は、国語研内部の共用サーバにファイルが置かれてはいたが、主に研究資料室の管理用として利用されてきた。また資料群のタイトルから資料群概要が検索できる簡略版データベースが、国語研内部向けに公開されてきた。今回、一般公開に向けて資料群概要の記述項目の見直しと更新を行ったが、資料群概要のデータベース「国立国語研究所研究資料室収蔵資料 (<http://rmr.ninjal.ac.jp/>)」(図3)も一般公開向けに新たに作成した。

The screenshot shows the official website of the National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL). The header includes the logo, name, and English translation. Below the header, the main title '国立国語研究所 研究資料室収蔵資料 Research Materials on NINJAL' is displayed. A news section at the top left announces the release of a list of materials from the NINJAL Research Center. The main content area features a search bar and a table of research materials. The table has columns for '資料群ID Reference Code', '表題 Title', and '概要 Description'. Two entries are listed: one for a survey of Hokkaido's language situation and another for a study on language standardization in information society.

資料群ID Reference Code	表題 Title	概要 Description
fo0001	北海道における共通語化と言語生活の実態(北海道調査2回目)	共通語化の過程を実証的に把握するとともに、富良野市と札幌市の対比により北海道の言語生活の実態をどうしようとした調査で1986年(昭和61年度)～1988年度(昭和63年度)に実施。
fo0002	情報化社会における言語の標準化:日本人の言語行動の類型:言語行動場面の標準化	1982年から1984年にかけて、大阪府豊中市・京都府宮津市・兵庫県豊岡市で行なった、言語行動場面の標準化に関する調査の資料。

図3 国立国語研究所研究資料室収蔵資料

データベース作成に際しては、多様な検索機能を装備するために時間をかけるよりも、研究資料室が収蔵する研究資料をできるだけ早く公開することを優先した。また資料群の総数が230程度であることから、資料群のタイトル一覧と概要を表形式とし、資料群の識別番号に相当するfond番号を指定することで資料群概要の詳細な記述を表示させる形とした。データベースは2017（平成29）年3月に公開したが、その際、資料群の内容についてだけでなく資料群の利用方法についての「手引き」も併せて公開した。

本稿執筆時点では、資料群概要の詳細記述までを表示させているが、今後、各資料群の箱単位での内容を表示することを予定している。

4. 研究資料の配架変更

研究資料は、資料群ごとに段ボール箱に入れられて中央資料庫に配架されていることはすでに述べたが、公開にあたってこれら段ボール箱の配架変更を行った。

資料群には識別番号であるfondの番号が与えられ、その資料群に属する段ボール箱にはさらに通し番号が付けられているが、これまでに中央資料庫の書庫にfond番号順に資料が並べられていたわけではなく、また同じfond番号内の段ボール箱が通し番号順に一つにまとめて並べられていたわけでもない。さらにいえば、fond番号は資料群の古い順に付けられているわけでもない。

この不規則な資料群の配架の理由は、資料群を中央資料庫に集中化する際に必ずしも各研究部門から資料の古い順に出されたわけではないこと、資料群を方言調査や語彙調査のようにその調査の主題によって分類しようとした可能性があること、研究部門から資料が提出されてしまふたってからそれに関連する資料が提出されたこと、などが考えられる。

不規則な資料群の配架のため、必要な研究資料を探すためには、fond番号や通し番号がわかつていても、いちいち管理用の配架リストで配架場所を確認する必要があった。しかし、中央資料庫は図書館の開架書架のように不特定多数の利用者が自由に閲覧するような性格のものではなく、公開にあたっては利用者は資料群概要のデータベースによって検索を行い、その資料の出納は原則として研究資料室の担当職員が行う方式とすることにした。

これらを考慮し限られた人的資源で効率的に資料を出納できるようにするために、すべての資料群をfond番号順、通し番号順に並べ替える作業を2016（平成28）年の秋に行った。また、今後すでに収蔵されている資料群に関連する研究資料が移管されるような場合は、これまでの同じfond番号に通し番号を追加するのではなく、新たにfond番号を付与し、資料群概要記述で関連する資料群を参照できるようにした。

5. 語彙調査の雑誌コレクション

国語研では、「雑誌一般の用語の概観調査(現代雑誌90種調査)」や「現代雑誌200万字言語調査」など数回にわたり、雑誌を用いた語彙調査を行ってきた。これらの調査に使用された雑誌は研究図書室所蔵の雑誌とは別に、中央資料庫に収蔵されている。

中央資料庫に収蔵されている雑誌コレクションの特徴は、総合月刊誌、総合週刊誌、婦人雑誌、スポーツ雑誌といった一般的な物から、競馬やパチンコといった趣味・風俗関係のものまで幅広く、大学、研究機関などの図書館では所蔵していないと思われるものも数多く含まれている。一方で、図書館では雑誌を購読する場合、ある程度の期間継続するのが一般的であるが、中央資料庫の場合は調査を行った前後の期間のみ購読するものがほとんどで、場合によっては特定の号だけを購入するという例も少なくない。このように中央資料庫に収蔵されている雑誌コレクションは、継続性がないという欠点がある。

中央資料庫では、古い時期に行われた調査で使用した雑誌を大まかなタイトル順に、平成になってから行われた調査で使用された雑誌は受け入れ順に配架していた。雑誌のリストとしては管理用の配架リストがあるのみで、しかも現物チェックは厳密に行われているとは言い難く、実際に何があるかが不透明であった。さらに、平成になってから行われた調査に使用された雑誌（具体的には平成6年発行の雑誌）は受け入れ順のため、個々のタイトルが具体的にどの場所に配架されているかを確認するのが非常に困難であった。

研究資料の公開にあたって、調査資料としての雑誌についてもコレクションの特殊性から一定の利用の可能性が見込まれることから、収蔵雑誌のタイトルの公開を前提に約18,000冊の現物確認作業を行った。そのデータを元に、受け入れ順に配架されていた平成6年発行の雑誌について、タイトル順に並べ替える作業を行った。

これら一連の作業によって厳密な配架リストが確定したが、実際に利用するにはタイトル単位の収蔵リストが必要であることから、配架リストから所蔵リストを作成し公開した。<http://rnr.ninjal.ac.jp/data/magazineList.pdf> この所蔵リストはExcelをPDF化した簡易なリストのため検索機能はないが、今年度中に研究図書室のOPACにデータ入力作業を開始し、国語研内外からの検索性を高める予定である。

6. 研究資料公開の課題

6.1 個人情報

研究資料を収集・作成するもとになる調査のうち、方言調査や言語発達調査などではインタビューなどから調査票（個票）を作成して集計・分析が行われるものがある。この調査票には、氏名、年齢、居住地といった個人情報が含まれ、場合によっては学歴、家族構成などが含まれることもある。とくに初期の調査ではこの傾向が強い。もちろん調査結果の報告集では、個人情報を直接表記するようなことはないが、その原資料である研究資料には当然のことながら個人情報が記載されていることがある。研究資料は学術研究を目的に収集・作成されたものであり、ほとんどはいわゆる「法人資料」には該当しないが、その利用にあたっては個人情報の保護に留意を図る必要がある。

研究資料室では、研究資料の公開準備のために段ボール箱の配架変更を行う計画を作成した時点で、あらかじめ個人情報が含まれた研究資料の有無について確認作業を行い、段ボール箱に収められた研究資料の大部分が個人情報を含むもの、研究資料の一部に個人情報を含むもの、個人

情報を含まないもの、の3種類に分類した。約4,300箱のうち、大部分が個人情報を含むものが約1,200箱(28%)、一部に個人情報を含むものが約300箱(7%)、個人情報を含まないものが約2,800箱(65%)という結果になった。

研究資料を公開する際に、個人情報が含まれる研究資料をどのように利用させるかということ 大きな課題になった。「国立国語研究所研究情報発信センター研究資料室運用指針」では研究資料室の資料は調査・研究を目的として原則公開するとされているが、公開することに支障があると認められる場合はその限りではないとしている。一方、研究資料には一定程度個人情報が含まれており、これらを一切利用させないことになると、研究資料室の資料の公開の意義が半減してしまう懼れがある。研究資料室の資料の公開は調査・研究を目的とすることが前提となっており、その上で個人情報を保護するためにどのような対応をとるかということが課題となった。

本稿執筆時点では最終的な方針等は決定されていないが、学術研究を目的とすることを前提とした上で、研究資料を利用する際には記載された個人に不利益が生じないように配慮すること、個人情報を第3者に提供しないこと、などの取り扱い方針を2017(平成29)年度中に策定する予定である。また、個人情報が含まれる研究資料を利用する場合は、あらかじめ利用目的を申請した上で上記の方針を順守する申請書を提出してもらうことを予定している。

6.2 研究資料の劣化

中央資料庫に収蔵されている紙媒体の研究資料は、国語研が創設されてから実施された調査や共同研究の際に収集・作成されたものであり、創設以前に発行されたごく一部の雑誌を除いて1948(昭和23)年以降のため、紙質が極端に劣悪なものはない。さらに中央資料庫は、温度・湿度が管理され太陽光も遮断された良好な保管環境を維持している。

そのため、中央資料庫の研究資料には劣化が深刻な状態にまで至って利用に耐えないようなものはほとんどないといってよい。ただ、2005(平成17)年の立川移転により研究資料が中央資料庫に集中化されるまでの間、各研究部門で保管されていた研究資料の中には保管状態が芳しくなかったと思われるものがある。とくに初期の調査票などには、埃などが付着して今後劣化を促すようなものもあった。そこで、初期の調査票などをチェックし、状態がよくないものについては、専門業者によってクリーニングを実施し保存箱も段ボール箱から中性紙箱に変更した。この作業は今後も順次実施していく予定である。

また、語彙調査のために収集された雑誌の中には、国語研創設以前に刊行されたものがごく一部ではあるが含まれている。これらのうち1945(昭和20)年前後の雑誌には、紙質も製本状態も悪いものが存在する。このような雑誌については、透明のポリプロピレン製カバーに収納して形態が悪化しないようにすることを予定している。

研究資料の大部分は研究成果を得るために中間生成物であり、とくに紙媒体のものは一つしか存在しないものが多い。その貴重性を考慮し、研究資料室としては今後も資料の劣化対策を行っていく予定である。

参照文献

- 国立国語研究所 (2017)『国立国語研究所要覧 2017/2018』東京：国立国語研究所。
- 森本祥子 (2006)「EAD を用いた資料記述システムの開発」『アーカイブズ学研究』4: 92–102。
- 寺島宏貴 (2016)「日本語研究資料の整備と公開」『国立国語研究所論集』10: 245–263。
- 山口亮・関川雅彦 (2016)「国立国語研究所所蔵資料アクセス環境改善への取り組み」『人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』203–208。

An Approach and Issue for the Public Opening of Research Materials in the National Institute for Japanese Language and Linguistics

SEKIKAWA Masahiko^a YAMAGUCHI Ryo^b

^{ab}Adjunct Researcher, Center for Research Resources, NINJAL

Abstract

The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL) has promoted many collaborative research studies, in areas such as dialects, vocabularies, and Japanese language education, and in the process, has collected and preserved research materials at the Center for Research Resources. Considering NINJAL's mission, it is desirable to open research materials to the public for deserving Japanese language research and education. This paper describes an approach and issue in relation to the public opening of paper research materials.

Key words: research material, fond document, general international standard archival description, personal information